

# 佛立開導日扇聖人物語 第15回



200th Anniversary  
佛立開導日扇聖人◎ご生涯200年慶讃

開導聖人は明治十四年（一八八二）、《高祖六百回御遠諱》（日蓮聖人がお亡くなりになったから六百年目に行われる法要）に向けて、その準備を進めて来られたんだけど、その大法要を目前にして大変悲しい出来事が起こるんだ。今回は「深い悲しみ」と「大法要」のお話をするね。

## 高祖六百回御遠諱

開導聖人は《高祖六百回御遠諱》に向けて、佛立講の信心の改良（よくすること）と妙講一座や仏丸の制定（先月号を参考に）してね）、会場（本門佛立講親会場）の新築（新しく建物を建てる）など、いろいろと準備を進めてこられたんだ。

ただこの大法要（高祖六百回御遠諱）を目前にして大変悲しい出来事が起こるんだ。それは開導聖人の奥さんであるお栄さんがお亡くなりになってしまったんだ。

お栄さんは開導聖人とご結婚された後、お寺（宥清寺）に住まれ開導聖人をたすけ、炊事洗濯の家事から、お弟子さんや若いお教務見習いの方々のお世話。お寺にやってくるお客さんやご信者方への対応。そして、一日一万遍のお看経（御題目をお唱えすること）を決して欠かさず毎日頑張ら



明治十四年十一月11、12、13日の3日間、15,000人のご参詣のもと高祖600回御遠諱が勤められた

明治十四年九月頃からお栄さんは病気で横になられることが多くなったんだ。十月のはじめ、少し良くなられたんだけど、また体調をくずされ、お祖師さま（日蓮聖人）のちようど六百回目の御命日（亡くなった日）の前日の朝、お亡くなりになってしまったんだ。

開導聖人は「十一年間、一日一万遍のお看経を怠る（なまける）ことなく、明治十四年十月十二日午前八時に亡くなった。十三日午後三時よりお葬式を。名前は「栄」という。法号（死者におくる名）は「松嶺院清隨日栄信女」。清風（開導聖人）の妻として家に来て十一年目。年は三十六才だった」と、お栄さんのことについて仰られているけど、とても悲しかっただろうね。

お祖師さまの六百回目の御命日は、明治十四年十月十三日。そこで、開導聖人は十月十一、十二、十三日の三日間にわたり、本門佛立講で大法要をお勤めすることを決めておられたんだ。でも奥さんのお栄さんが亡くなるという悲しい出来事によって、この大法要を一カ月延ばしてお勤めすることになったんだ。

そして、明治十四年十一月十一、十二、十三日の三日間、開導聖人が待ちにまられた大法要が無事にお勤めされたんだよ。

宥清寺の本堂でお看経を、そして場所を移して宥清寺の向かい側に前年（明治十三年）建てられた本門佛立講親会場（宥清寺親会場）で、御法門が説かれ、多くのご信者方が御法門を聴聞されたんだ。

この三日間の大法要に「京都、大阪、兵庫、丹波、丹後（どちらも兵庫県）、紀州（和歌山県）、伊勢（三重県）」と、各方面からご信者の参詣があり、今のように交通網が発達していない時代に、一万五千人のご参詣があったというから驚きだね。

奥さんのお栄さんを亡くされるという悲しみに耐えながら、開導聖人はご生涯で最大の大法要をお勤めになられたんだね。



（上の写真）旧宥清寺（現在の佛立霊地）高祖600回御遠諱の大法要は、この旧宥清寺で一座のお看経がなされた。（下の写真）宥清寺の向かい側に明治十三年に建てられた本門佛立講親会場（現在の佛立教育専門学校）では御法門が説かれた。



明治十二年頃の開導聖人 御年63歳



明治十二年頃の開導聖人の奥さんお栄様